

絵本を媒介にした対話に現れる子どものことばの力と支援者の役割

— 日英二言語習得の幼児の事例 —

秋山 幸 (早稲田大学大学院日本語教育研究科)

1. 本研究の目的

複言語の幼児と身近な支援者が行う絵本を介した対話のうち、絵本から離れた過去の体験に関する対話に焦点をあて、次の2点について探ることを試みる。

- ① 子どものことばの力がどう発揮されるか
- ② 支援者はどうかかわっているか

3. 本発表のデータ

3冊の絵本で、子どもが、絵本から離れて合計4つの過去の体験の言語化を行った。

過去の体験に話が及んだ絵本

- (a) Henkes, K. (1993) *Sheila Rae, The Brave*. Scholastic Inc.
- (b) あかしのぶこ (2015) 『ももんがのふゆのおうち』 ちいさなかがくのとも 福音館書店
- (c)(d) しまだともみ (2014) 『ドアをあけたら』 東京書店

2. 研究方法

- ・ カナダ英語圏 日英二言語使用の一家庭に協力依頼
- ・ 日常の絵本を用いた活動を調査 (2015年12月 ICレコーダーに録音)
- ・ 分析の観点
 - ① 対話が絵本の文脈、支援者の意図から外れるきっかけ
 - ② 支援者(母、調査者)がどのように対応しているか
 - ③ 子どもの発話のどこにどのようなことばの力が表出されているか

過去の体験		絵本を介した対話				
体験のトピック	対話相手	場所	使用言語	対話相手	使用言語	絵本の言語
(a) 小さい子に親切にする	年下友人	日本語学校	—	母	Jp	En
(b) 食事のマナー	母	自宅内	Jp	母	Jp	Jp
(c) カタツムリの観察	年上友人	自宅庭	En	調査者	Jp	Jp
(d) トマトが食べられなくなったこと	父	自宅内	En	調査者	Jp	Jp

Jp: 日本語 En: 英語

4. 分析と考察

(a) 小さい子に親切にする

S-01 M: あ、おててつないであげてる。
Rちゃんみないだね。
S-02 R: ちゃんみないだね。
S-03 M: Rちゃんこの間ちっちゃい赤ちゃん助けてあげたでしょ。
S-04 覚えてる?
Luke滑り台から落ちこちそうになったとき、こうやっててつないだり、抱っこしてあげたりしたね。
S-05 M: うん。
S-06 R: うん。
S-07 R: でも、ドアもちよつと行ったときも、抱っこしたよ。
S-08 M: あ、ドアのときも抱っこしてあげたの。
S-09 R: え、違う。でも
S-10 M: うん。
S-11 R: なんかも、もちよつと、drumの場所行った時、でも、ひとあるの、###抱っこするの
S-12 M: うん。
S-13 R: お母さん一緒に降ったの、またRちゃんまたやった、またまたいつも
S-14 M: あ、そうなんだ、あの子いつもドラムのとこいつちゃうんだ。
S-15 R: でも、ちよつと重かった。
S-16 M: 重かった?!
S-17 M: あの子2歳だもんね。
...
S-25 R: ###、Rちゃん手伝ったの。
S-26 M: あーそうなの。

転写規則
? 上昇イントネーション 「文字列」 絵本の本文
! 大きい声 「文字列」 小さい声
聞き取れない (文字列) 注記
[] 同時の発話 (数値) 沈黙の秒数

(b) 食事のマナー

M-05 M: やわらかくなるんだって、ごっくごっくごっくべーすると。
M-06 R: んん
M-07 M: Rちゃんもお肉もぐもぐごっくんじゃなくて、もぐもぐべーしたら柔らかいお肉出てくるでしょ?
M-08 C: [うええ
M-09 R: [Rちゃん]べーしないよ。
M-10 K: [べーしないよね。]
M-11 R: [ごっくんだけ。]
M-12 M: Rちゃんごっくんだけ?ほんど?
M-13 R: うん、Rちゃんこうやって(かむ真似)ってごっこ、もつと食べるの。
M-14 M: あーそうなんだ。
M-15 R: お母さんへんなの!
M-16 M: でも、この、お母さんちよつと愛かな、このモモンガちゃん、ごっくごっくんしないの、これ、もぐもぐもぐ、べーってやるの。
M-17 R: Rちゃんもべーするの、おいしくないからRちゃん、もういつこべーするの、ちよつといっぱいあるから(そばにある物でカップをたたく)
M-18 ...
M-19 M: ふーん、そっかあ。
M-20 R: だからよー(カップをたたく)

(c) カタツムリの観察

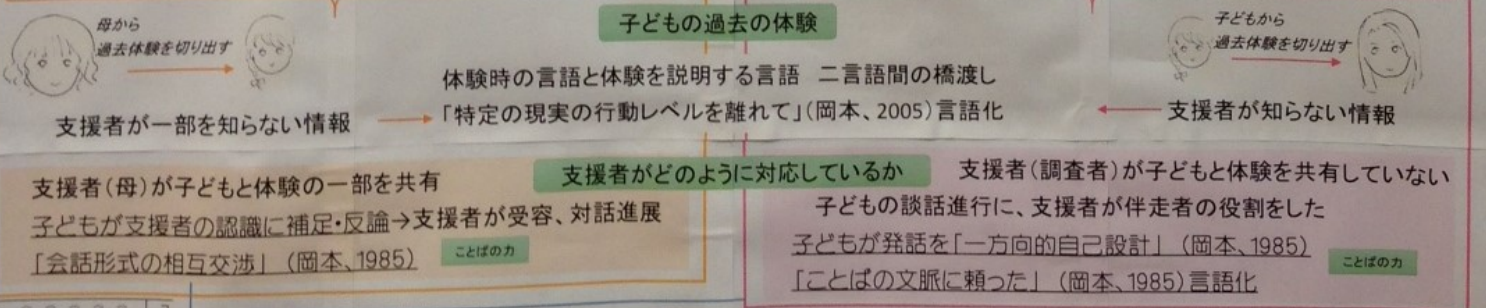
D1-01 K: こうちゃん考えるの?
D1-02 R: うん。
D1-03 K: かたつむり。
D1-04 R: でえー!
D1-05 K: ちがうの?
D1-06 R: Rちゃん、かたつむりの##なには、わかんないのなまえば。
D1-07 R: それ、意味なに、[わかんない。
D1-08 K: [かたつむりはなんだって?]
D1-09 M: [snale.
D1-10 K: [snale.
D1-11 K: snale知ってる?
D1-12 R: あー、snale?
D1-13 K: うん。
D1-14 R: あー、それわかる、わかる。
D1-15 R: Rちゃんsnaleさわったの。
D1-16 R: 濡れてたの。
D1-17 K: あー、そうだよな!
D1-18 濡れてるよね。
D1-19 R: うん、Colin先さわって、それ、それなんだかなってさわつたら、snale[だったー!
...
D1-27 R: でも、ゆっくり歩くのね。
D1-28 K: ゆっくりだよな。

(d) トマトが食べられなくなったこと

D2-01 K: これはなに?
D2-02 この赤い飲み物は?
D2-03 R: は?
D2-04 K: この赤いジュースなに?
D2-05 R: トマト。
D2-06 K: トマト。
D2-07 R: はっばついて、きたね。(汚い)
D2-08 K: きたくないよ。
D2-09 K: Rちゃん、トマトのジュースきらいなの?
D2-10 (2.3)
D2-11 R: ぜんぜん飲んでないからわからない。
D2-12 K: ぜんぜん飲んでないからわからない。
D2-13 R: Rちゃん、好きじゃないトマトジュース。
D2-14 ジュース、Rちゃんトマトジュースなんて飲まないかわかる?
D2-15 K: うーん。(考える)
D2-16 R: Rちゃん、トマト食べたらずで、トマト、ここ(口の周りを指して指し示す)、食べたらず、ジュースについて、ここ痛かったの。
...
D2-25 R: ぜんぜん、トマト買ってだめいうのお父さんに。
D2-26 K: ふーん。

対話が絵本の文脈や支援者の意図から外れるきっかけ

支援者の発話
→ 子ども: 支援者の予測を外れた発話
→ 支援者が応じる
→ 支援者との対話をしながら進展



5. 結論

「少数の親しい特定者」に向けて二次的のことばの特徴が表出されている。「二次的のことば」への準備過程を捉えることができた。

子どもに「合わせたデザイン」による対話によって実現できる。

子どもの体験時の言語と体験を説明する言語が異なる場合、相互交渉や支援者の伴走的役割により、言語間の橋渡しが実現できる。

参考文献
岡本豊(1985)「ことばの発達」岩波新書
岡本豊(2005)「幼児期一語二語は世界をどうつかむか」岩波新書